

～臨床情報・検体の研究利用に関するお知らせ～

【研究課題名 頸動脈ステント留置中に発生する大動脈弓由来脳塞栓の検討】

研究機関名 東邦大学医療センター大橋病院

研究責任者 脳神経外科 職位・氏名 講師・林 盛人

【試料・情報の利用目的】

東邦大学医療センター大橋病院脳神経外科では、頸動脈ステント留置術中に発生した遠位塞栓とMRIで検出される大動脈弓部プラークとの相関を解析する目的で本研究を計画しました。頸動脈ステント留置術とは、足の付け根や腕の血管からカテーテルと呼ばれる細い管を挿入し、首の血管（頸動脈）の細い部分まで誘導して、頸動脈の狭窄部分に“ステント”と呼ばれる金属性の網状の筒を留置することで血管の狭窄部位を拡張させる手術です。この手術の合併症として、カテーテルを誘導中もしくはステントを留置中に発生する遠位塞栓が知られています。遠位塞栓とは、血管の壁にできたプラークと呼ばれる血液の固まりがカテーテルの誘導中もしくはステント留置に際して一部損傷することで発生する血栓が遠位の脳血管に流れて、脳の血管を閉塞し、脳梗塞の原因となります。本研究は大動脈弓という場所のプラークが、頸動脈ステント留置術に伴う遠位塞栓による脳梗塞発生に影響しているかどうかを調べる研究です。この研究で得られる成果は、頸動脈ステント留置術の安全性向上に寄与します。

【他機関への提供】

他機関への提供は行いません。

【研究に用いられる試料・情報】

情報：年齢、性別、既往歴、生活習慣歴

手術内容：使用したカテーテルやステントの種類、アプローチ(上腕動脈、大腿動脈など)
術前のMRIで評価される大動脈形状、大動脈弓部の不安定プラークの有無及び位置
手術翌日に行われるMRIで評価される頸動脈ステント留置術後に発生した遠位塞栓による新規脳梗塞の位置、場所。

研究に利用する情報は、患者さんのお名前、住所など、個人を特定できる情報は削除して管理します。また、今回の研究で得られた成果を、医学的な専門学会や専門雑誌等で報告することがありますが、個人を特定できる情報を報告・公開することはありません。

【試料・情報の利用または提供を開始する予定日】

2024年5月より利用を開始します。

【試料・情報の取得方法】

対象者：2019年4月1日～2022年7月31日までに東邦大学医療センター大橋病院脳神経外科で頸動脈ステント留置術が行われた頸動脈狭窄症患者様（約30例）。

方法：診療録(カルテ)から抽出した臨床データを解析し、大動脈弓部のプラーク評価、頸動脈ステント留置術後に発生した遠位塞栓による新規脳梗塞との相関を解析する。

この研究に必要な画像検査は通常の診療範囲で行われますので、患者さんに新たな負担をおかけすることはありません。

【研究組織】

代表施設名： 東邦大学医療センター大橋病院 研究代表医師： 林盛人 役職： 講師

【試料・情報の管理について責任を有する者の名称】

東邦大学医療センター大橋病院 脳神経外科 講師 林 盛人

本研究に関してご質問のある方、試料や情報を研究に利用することを承諾されない方は、2024年6月30日までに下記へご連絡下さい。申し出のあった方の試料・情報は、利用や他の研究機関への提供を行いません。その場合でも、患者様に不利益になることはありません。また、患者さんご本人はもちろん、ご家族等、代諾者の方からのお問い合わせもお受けいたします。

【連絡先および担当者】

東邦大学医療センター大橋病院 脳神経外科

職位・氏名： 講師・林 盛人

電話： 03-3468-1251 内線： 7434